

為替週間展望 = ドル円は 108 円台を中心に底堅い推移か

[10月21日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月14日～10月18日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.28	108.94(17)	108.03(14)	108.58	+0.29
ユーロ・ドル	1.1044	1.1140(17)	1.0991(15)	1.1118	+0.0076

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	22,492.68	+693.81	日本10年債利回り	-0.140	+0.039
ダウ平均株価	27,025.88	+209.29	米10年債利回り	1.752	+0.023

=====

<来週の主要経済統計等>

- 21日 英10月ライトムーブ住宅価格
日本9月貿易収支
独9月生産者物価指数
- 22日 カナダ8月小売売上高
米9月中古住宅販売件数
- 23日 NZ9月貿易収支
米MBA住宅ローン申請件数
カナダ8月卸売売上高
米8月住宅価格指数
- 24日 日本8月景気動向指数改定値
欧州中央銀行(ECB)政策金利
ドラギ総裁記者会見
米9月耐久財受注、米新規失業保険申請件数
米9月新築住宅販売件数
- 25日 独10月ifo景況感指数
米10月シガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】トランプ米大統領から米中貿易協議に関して前向きなコメントが出てきたこともあり、108円台を回復するなど堅調な動きを見せており、ドル円は米中貿易協議関連の報道に左右されつつも、107～108円台でのレンジ相場となりそうとした。

【米中の部分合意でリスク警戒感が後退】

11日の米中閣僚級協議では、農産物や為替などを中心に部分合意に達した。中国は米国産の農産物の輸入を拡大するとともに、今月15日に予定されていた米国による中国製品への関税引き上げは見送られた。これで米中の深刻な対立はひとまず回避された。

米中が「第1フェーズ」の合意に達したことで、リスク警戒感が後退して11日のNYダウは一時500ドル超の上昇となり、319ドル高で引けた。ドル円も108円台半ばまで上昇を見せた。なお、その後、中国側が署名する前に一段の協議を希望していると報じられたことで、楽観的な見方がやや後退して、14日のNYダウは29ドル安となったものの、ドル円は108円台を中心に底堅い動きとなった。

15日には好調な米企業決算を背景にNYダウが237ドル高と大きく上昇、英国の

欧州連合（EU）離脱に関して、前向きに進展しているとの報道が好感されてのポンド円の上昇などもあり、ドル円は108.90円近辺まで上値を伸ばした。

米下院が15日に「香港人権民主主義法案」を可決しており、これに対して中国外務省は米下院を強く非難、香港法案成立なら強力な報復措置を講じると表明した。これを受けて米中摩擦が再燃するとの警戒感が高まった。ただ、米国株やドル円への影響は限定的となっている。

17日には英国と欧州連合（EU）が離脱条件で合意したことで、ドル円は一時108.90円台まで上昇した。もっとも英議会で承認されるかは不透明な情勢となっており、その後は上値を抑えられた。

CME FEDウォッチでは、10月29～30日の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利下げ確率は18日時点では85%前後で推移している。米経済指標は下振れするものが多くみられることから、利下げ確率は高水準を維持している。ただ、このころの米国や日本の株高もあり、ドル円への影響は限定的となっている。

ドル円は108円台を回復した後は堅調な推移を見せている。米中協議や英国のEU離脱報道に左右される可能性はあるものの、このところはネガティブな報道にも大きく崩れるようなことはない。このため、108円台を中心に底堅い動きとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、107.50～109.30円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、21日に日本9月貿易収支、22日に米9月中古住宅販売件数、23日に米MBA住宅ローン申請件数、米8月住宅価格指数、24日に日本8月景気動向指数改定値、米9月耐久財受注、米新規失業保険申請件数、米9月新築住宅販売件数、25日に米10月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロはポンドに追隨して上昇傾向に】

英国がEU離脱について、両者の交渉が順調に進展していると報じられて、合意なき離脱が回避されるとの期待感が広がった。これを受けてポンドドル、ポンド円が大きく上昇してきており、同じ欧州通貨であるユーロドル、ユーロ円も追隨して上昇傾向にある。

17日に英国とEUは離脱条件で合意に達したものの、英議会で承認は不透明となり、ポンドの上げも一服している。

ユーロは景気減速への懸念も根強く、ユーロ独自の買い材料には乏しい状況となっている。こうした中、ポンドが上昇基調を続けるとユーロにも支援材料となりそうだ。ただ、ユーロドルはポンドドル追隨というだけでは上昇には限度があり、徐々に上値も重くなるとみられ、上昇も頭打ちとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1000～1.1200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、21日に英10月ライトムーブ住宅価格、独9月生産者物価指数、22日にカナダ8月小売売上高、23日にNZ9月貿易収支、カナダ8月卸売上高、24日に欧州中央銀行（ECB）政策金利、ドラギ総裁記者会見、25日に独10月IFO景況感指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。